

□記者会見資料
 ■記者発表資料
 □報道機関配布資料

平成21年9月24日

件名「松江市一斉ノーマイカーウィーク」社会実験の実施について

[内 容]

1 事業内容 多くの市民や市内通勤者がマイカーを控えることにより、市内からのCO2排出の削減と、交通渋滞の緩和、公共交通利用の促進に貢献できることを啓発し、一人ひとりの行動変化を促すことを目的に実施する。

具体的には、期間中1日でもこの社会実験の協力いただくよう、周知を行う。

2 実施主体 松江市、松江市公共交通利用促進市民会議、島根県、国土交通省中国地方整備局松江国道事務所

3 実験期間 平成21年10月19日（月）～23日（金）

4 対 象 松江市民及び市内事業所への通勤者

5 実験報告 松江市HPで実験効果について報告予定
 （速報：10月下旬頃 詳細：2月頃）

6 周知方法 市報折込他

7 問い合わせ 松江市役所 政策部政策企画課総合交通政策室

担当 室長 足立 保
 専門企画員 深江篤司

電話 (0852)55-5661

国土交通省松江国道事務所 担当 副所長 常松 宏
 調査設計課長 加田 厚

電話 (0852)26-2131

問い合わせ 政策部政策企画課総合交通政策室

担当者 深江 TEL 55-5661

決済

○添付資料 ☒有・無

○写真 有・☒無

○図面・イラスト 有・☒無

○説明 ☒有・無

広報主任	広報事務連絡員

※提出部数 記者会見 35部
 記者発表 25部
 配布資料 23部

松江市一斉ノーマイカーウィーク(10月)の実施について(社会実験)

1. 実施期間 平成21年10月19日(月)～23日(金)
2. 目的 多くの市民や市内通勤者がマイカーを控えることにより、市内からのCO2排出の削減と、通勤渋滞の緩和、公共交通利用の促進に貢献できることを啓発し、一人ひとりの行動変化を促すことを目的に実施する。
3. 主催 松江市
松江市公共交通利用促進市民会議
島根県
国土交通省中国地方整備局松江国道事務所
- 共催 一畑バス(株)
松江市交通局
日ノ丸自動車(株)米子支店
西日本旅客鉄道(株)米子支社
一畑電車(株)
- 後援 国土交通省中国運輸局島根運輸支局
松江商工会議所
まつえ北商工会
まつえ南商工会
(社)島根県旅客自動車協会
まつえ環境市民会議
松江市交通安全対策会議
島根県警察本部
松江警察署
松江市町内会・自治会連合会
松江市公民館長会
一畑電気鉄道(株)
連合島根
島根県交通運輸産業労働組合協議会
各報道機関各社
4. 実施のねらい 普段、マイカーによる移動をしている市民に、期間中できる範囲で自動車を利用しない移動を実践してもらい、マイカーから転換する動機付けとして、その良さを分かってもらうことで、継続的な取り組みとするための契機とする。あわせて各種のデータ収集を行う。

5. 実験方法 職場を通じた働きかけや広報等により、市民や市内通勤者に対し、自家用車を使用しない日を個人でウィーク中に1日以上設定し行動する。
6. 効果の測定 ①ノーマイカーウィーク前・ノーマイカーウィーク中で渋滞状況、自動車交通量、自転車交通量、バスの利用者数を比較する。
 ※渋滞状況、自動車交通量、自転車交通量は市内の主要地点で実態調査を実施することにより把握する。
 ※バスの利用者数は松江市交通局の乗降データより把握する。
 ②市民、企業へのアンケート調査を実施し、ノーマイカーウィーク中の参加状況（参加者数や交通手段の転換状況など）や CO2 削減量を把握する。
7. 周知方法 ①市民への周知と参加呼びかけ
 ー市報による周知と参加呼びかけ
 ーバス利用促進モデル地区（古志原地区1，500世帯）への周知と参加呼びかけ
 ②事業所への周知と参加呼びかけ
 ー「はじめよう！通勤でまっエコ」賛同事業所、市内大規模事業所などへの重点的な周知と参加呼びかけ（約360事業所）
 ーしよほう（松江商工会議所の会報誌）による周知と参加呼びかけ
 ③プレスリリース（事前、事後）
 ④新聞広告
 ⑤ポスター掲示（駅、公共施設など市内各所に掲示、企業に配布）
 ⑥HP（ で または <http://www.city.matsue.shimane.jp/jumin/koutsu/matsueco/matsueco.html>）

別 添 資 料

1. 松江市一斉ノーマイカーウィーク 広報ポスター

市民、事業所への松江市一斉ノーマイカーウィークの周知のためのポスター。駅や公共施設など市内各所に掲示すると共に、市内の事業所に配布することで取り組みへの参加を促します。

2. ノーマイカーウィークを応援する取り組み

一斉ノーマイカーウィーク期間に合わせて、「職員の通勤や業務移動で使える電動アシスト付自転車の市内事業所への貸し出し」や「駅やバス停付近へのパーク＆ライド駐車場（臨時）の設置」など、自転車やバス・鉄道等の代替交通手段の利用を支援する取り組みを実施します。

3. 松江市の環境・交通に関わる現況

①通勤時の交通手段分担の都市間比較

松江市の通勤における自動車分担率は約8割と極めて高くなっています。また自転車分担率は7%であり、中四国地方の他都市と比較しても著しく低く、通勤交通手段としての利用がなされていない状況です。

②松江市の運輸部門CO2排出量推移

松江市の運輸部門のCO2排出量は、この15年の間に約20%増加しています。

③松江市の渋滞状況

市内中心部への入り口や渡河部などで朝夕のピーク時に慢性的な渋滞が発生しています。

4. 取り組み紹介:『はじめよう！通勤でまつエコ』

松江市公共交通利用促進市民会議と国土交通省松江国道事務所では連携し、平成19年より、企業が各社で取り組み可能なエコ通勤メニューを考え、それらを「まつエコ宣言」（エコ通勤プラン）として策定し、できるペースで継続的にエコ通勤を実践していく「はじめよう！通勤でまつエコ」の取り組みを進めています。

2009年8月末現在、約50社、4500人が取り組みを実践しており、各社の環境や事情に応じて独自のユニークな取り組みをしている企業も多くあります。例えば、市内建設会社（春日町）ではエコ通勤担当者を配置し通勤や業務移動での自転車利用の推進に積極的に取り組んでいます。

今回のノーマイカーウィーク社会実験を機会に、継続的なエコ通勤に取り組む賛同事業所も合わせて募集しています。

松江市一斉

社会実験

ノーマイカーウィーク

たまにはクルマを
休んでみませんか？



クルマからのCO₂削減や交通渋滞の緩和、バス・鉄道の利用促進に向けて、
過度なクルマ利用を見直すきっかけづくりの取り組みです。
地球にエコ カラダにエコ おサイフにエコな取り組みに是非ご参加ください。

平成21年

10/19(月)

～

10/23(金)



詳しくはホームページをご覧ください。

通勤でまっエコ | で 検索 または

<http://www.city.matsue.shimane.jp/jumin/koutsu/matsueco/matsueco.html>

主催：松江市、松江市公共交通利用促進市民会議、島根県、国土交通省中国地方整備局松江国道事務所

共催：一畑バス(株)、松江市交通局、日ノ丸自動車(株)米子支店、西日本旅客鉄道(株)米子支社、一畑電車(株)

後援：国土交通省中国運輸局島根運輸支局、松江商工会議所、まつえ北商工会、まつえ南商工会、(社)島根県旅客自動車協会、まつえ環境市民会議、松江市交通安全対策会議、島根県警察本部、松江警察署、松江市町内会・自治会連合会、松江市公民館長会、一畑電気鉄道(株)、連合島根、島根県交通運輸産業労働組合協議会、共同通信社松江支局、時事通信社松江支局、朝日新聞松江総局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局、中国新聞社、毎日新聞松江支局、山陰中央新報社、新日本海新聞社松江支社、NHK松江放送局、BSS山陰放送、日本海テレビ、山陰中央テレビ、島根日日新聞社、エフエム山陰 (順不同)

2. ノーマイカーウィークを応援する取組み

①駅やバス停付近へのパーク＆ライド駐車場（臨時）の設置

職場へ通勤する際に、クルマを使用する可能性の高い郊外で、比較的バス停に近い場所へ駐車場を確保し、公共交通を利用した通勤方法を促すため、期間限定の無料駐車場を確保し、自宅からバス停等まで距離のある方を応援する。

【実施期間】

平成21年10月19日（月）～10月23日（金）

【対象車両】

クルマ

※ 自転車、バイクなどは駐輪場をご利用ください。

①②⑤⑥⑦⑩

【申込】

※利用するには、事前申込が必要です。（松江市総合交通政策室 0852-55-5661）

（使用する場所、使用日、駐車する車両番号）

※利用後は簡単な聴き取り調査を実施するのでご協力ください。

場所	台数
① J R 東松江駅（駅前）	10
② J R 宍道駅（北）	5
③ 美保関総合運動公園	20
④ マリンゲートしまね	30
⑤ 鹿島支所	20
⑥ 八束支所	20
⑦ 玉湯支所	20
⑧ 北消防署付近	20
⑨ 湖南中学校付近	20
⑩ 竹矢公民館付近	20
⑪ 八雲親水公園付近	10
計	195

②レンタサイクル

自転車による移動を推奨し、過度にクルマに依存したライフスタイルを見直す契機を提案する。

協力する自転車店で、自転車を100円で借りることができる。

通勤、社用として、クルマを使わないで移動する方法を提案し、過度にクルマに依存している意識を転換する契機を提案する。

店名	台数	住所	TEL
オートサイクル クルマまち	2	松江市和田 見町 70	21-4260
サイクルシ ョップおお くぼ	7	松江市殿街 147	21-4982
タカキ自転 車商会	3	松江市大正 町 487-12	21-5968
タクワサイ クル	8	松江市浜佐 田町 918-5	36-7775
フルカワ自 転車店	2	松江市春日 町 505-2	21-0656
計	22	-	-

【実施期間】

平成21年10月19日（月）～11月30日（月）

【申込】

※ 利用を希望する場合は直接自転車店へ申し込み。

※ 簡単なアンケート調査にご協力をいただきます。

③電動アシスト付自転車モニター制度（市内事業所への自転車の貸し出し）

松江市の通勤における自転車分担率は7%であり、中四国地方の他都市と比較しても著しく低く、通勤交通手段として認識されていない可能性が高い。

このような背景から、自転車利用の動機づけとして、市内の事業所に対し自転車を一定期間貸し出し、職員の通勤や業務移動で実際に利用してもらい、その利便性の高さを認識してもらうことで、クルマからの転換やクルマに過度に依存しない市民意識の醸成を図る。

【内容】

対 象：市内事業所でモニター制度を利用することにより、クルマ利用を控えることが可能な事業所。

台 数：10台

貸与台数：最大3台まで

貸与期間：最長3カ月とする

実施時期：平成21年10月19日～平成22年3月31日まで（必要に応じて延長）

【申込】

※松江市総合交通政策室（TEL：0852-55-5661）へ申し込みが必要。

※事業主、使用者それぞれ返却時にアンケートへのご協力をお願いします。利用者には日報を付けていただきます。

④主要バス停等で車内で読むための本貸し出し

公共交通機関を利用する際に、乗継や便待ちの時に、自由に読むことができる本があれば、待ち時間を有効活用することができることに合せ、公共交通を利用することによって、忙しい時間の中から、自分の時間を見つけることができることを提案する。

貸し出す本は、松江市立図書館で使用しなくなった本を利用し、市民が自由に利用することができるものである。

【実施期間】

平成21年10月19日～平成22年3月31日（必要に応じて延長）

【実施場所】

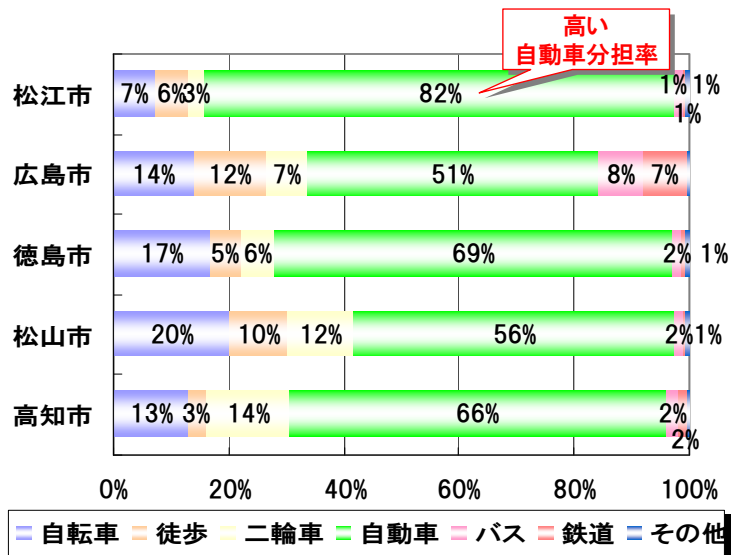
場所	冊数（予定）
川津バス停	50
美保関バスターミナル	50

3. 松江市の環境・交通に関わる現況

①通勤時の交通手段分担の都市間比較

松江市の通勤における自動車分担率は約8割と極めて高くなっています。

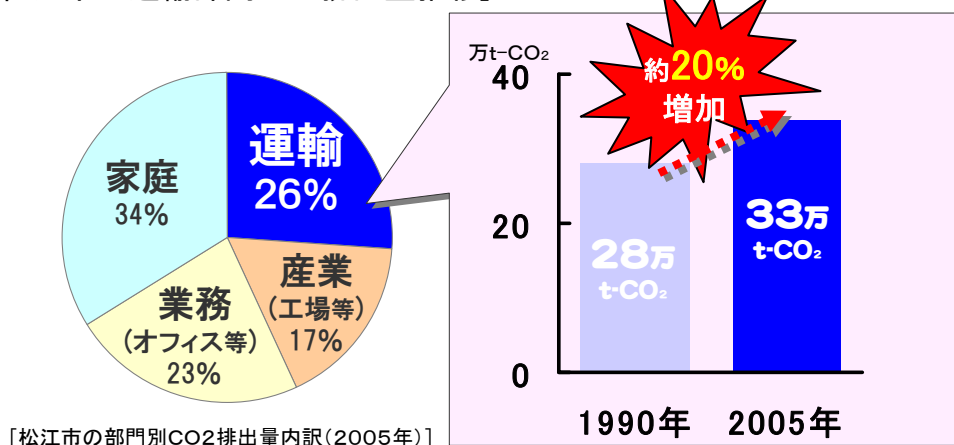
■通勤目的(平日)における分担率の都市間比較



②松江市の運輸部門CO2排出量推移

松江市の運輸部門のCO2排出量は、この15年の間に約20%増加しています。

[松江市の運輸部門CO2排出量推移]



出典: 松江市地域省エネルギービジョン

③松江市の渋滞状況

市内中心部への入り口や渡河部などで朝夕のピーク時に慢性的な渋滞が発生しています。

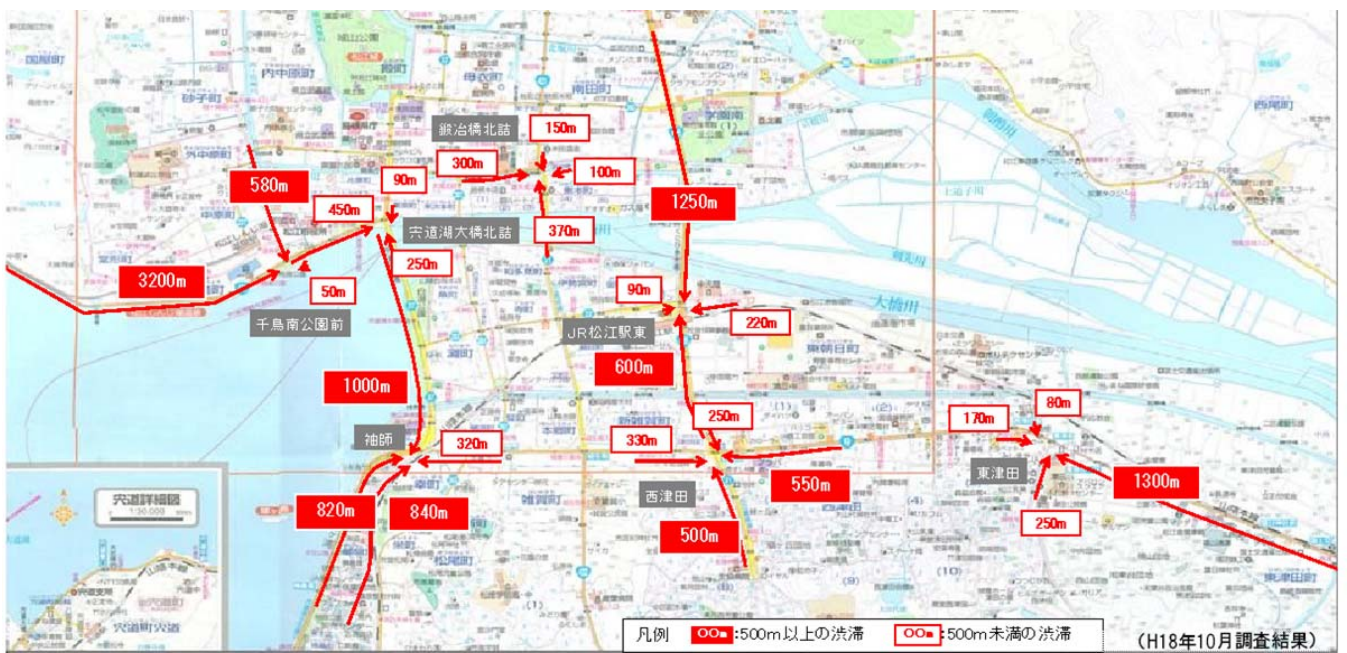
(国道 9 号西津田付近)



(くにびき大橋)



松江市内の朝ピーク時の渋滞状況（最大渋滞長）



※渋滞調査をした交差点のみ表示

4. 取り組み紹介:『はじめよう！通勤でまつエコ』

近年、企業が主体的に各社でできるエコ通勤メニューを考え、それらをエコ通勤プランとして策定し、各社でエコ通勤を実施していく取り組みが全国的に進められています。

松江市でも平成 19 年より、「はじめよう！通勤でまつエコ」として、取り組みを開始しており 2009 年 8 月末現在、約 50 社 4,500 人が各社独自のエコ通勤プラン(まつエコ宣言)を策定し、日々取り組みを実践しています。

各社の環境や事情に応じて独自のユニークな取り組みをしている企業も多くあります。例えば、市内建設会社(春日町)の取組みでは、エコ通勤担当者を配置し通勤や業務移動での自転車利用の推進に積極的に取り組んでいます。

松江市の高い自動車依存を解消していくためには、ひとり一人一社一社がほんの少し意識を変え、少しずつ取り組みを始めていくことが重要であり、今回の松江市一斉ノーマイカーウィークをきっかけに、継続的なエコ通勤(まつエコ宣言)に取り組む賛同事業所も合わせて募集しています。

詳しくはHPをご覧ください(取り組みの詳細や賛同事業所が掲載されています)。

で または <http://www.city.matsue.shimane.jp/jumin/koutsu/matsueco/matsueco.html>

■まつエコ宣言企業の取り組み事例(松江市内建設会社(春日町)の取り組み例)

社用自転車の購入による通勤、業務移動での自転車利用推進

- **業務用自転車を購入**し、2km 以内の近距離移動は自転車利用を推進している。
- **走行距離メーター**をつけて、走行距離が分かるようにし、月々の移動距離を記録。
- また **エコ通勤担当者を配置**し、通勤での自転車利用の推進などにも積極的に取り組んでいる。

▼取り組み推進のため、社用自転車を購入
(メーターによる走行距離の把握)

